

朝日 13.12.30



川崎市の住宅地に今年はじめ、5階建ての集合住宅ができた。高齢者が安心して暮らせるよう配慮された「サービス付き高齢者向け住宅」（サ高住）である。

今年8月、東京都内の戸建て住宅から移ってきた81歳女性は一入りのおしゃべりや趣味を楽しんでいます。人間らしい生活ができるようになり「ました」と話す。

2年前、病気で家事ができなくなった。介護付き有料老人ホームを探したが、入居一

### 賢く住み替える③

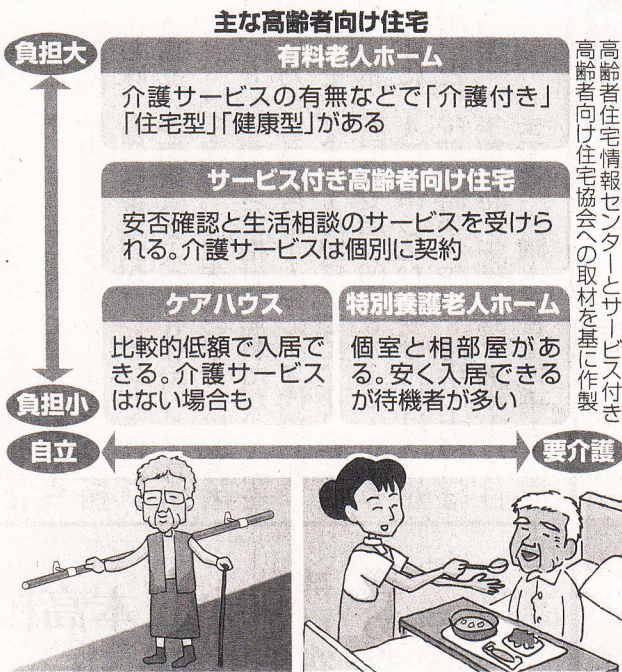
## 安心求め高齢者向け住宅

A3230

時金が高く、生活の自由もきかないことが多い。それに比べ、このサ高住は入居金ゼロだった。子や孫も電車で来やすい。二つ年上の夫と移り住み、夫は隣の部屋に入った。月々の入居費用は食費を含め夫婦それぞれ20万円ほど。「要支援2」の女性は5千円弱の介護費用も払い、風呂掃除などをしてもらう。女性は入居後、杖なしで移動できるほどに回復した。元気な夫はほぼ毎日外出している。

サ高住は2011年に制度化された。バリアフリー構造の住戸で安否確認と生活相談のサービスを提供する。多くの場合、食事の提供もある。

高齢者住宅情報センターとサービス付き高齢者向け住宅協会への取材を基に作製



住み慣れた家で老後を過ごしたいというのが多くの人の思いだろう。矢野経済研究所は7月、首都圏の戸建て住宅に住み、子どもが独立したシニアを対象にアンケートをし

た。8割が「部屋を活用しきれない」と答える一方、「住み替えたくない」という人が半数を超えた。

しかし、体力や健康への不安が増し、介護の必要が出てくることもある。より快適で安心な暮らしをめざし、高齢者向けの住宅に住み替えることも選択肢の一つだ。

高齢者向け住宅は図のような種類がある。自立度が高い人向けにはサ高住のほか有料老人ホームもある。「健康型」「住宅型」「介護付き」の3種類に分かれ、健康型は介護が必要になったら退去する。住宅型では必要に応じて外部の介護サービスを使う。

ケアハウスは軽費老人ホームの一種だ。

シニア向けの分譲マンションや、自治体などが供給する賃貸住宅のシルバーハウジング、UR都市機構の高齢者向け賃貸住宅などもある。

高齢期の住み替えは先延ばしになりがちだ。社団法人コミュニティネットワーク協会（東京）の近山恵子理事長は「老後の暮らし方について自分の考えを子どもに伝えられない人が多い。その場合、子どもの方から自分にできること、できないことをはっきり伝えることが、現実と向き合うきっかけになる」と助言する。子どもが実家に帰省する年末年始は、親子で話すいい機会だ。（吉川一樹）

◆次回（1月6日）は高齢者住宅の選び方を考えます。